

高知城(鷹城, 高智山城, 河中山城, 大高坂城, 大高坂山城)

(国重要文化財, 国史跡, 百名城)(高知市丸ノ内1丁目)(高知公園)

高知城(こうちじょう、*Kōchi Castle*, *Kōchi-jo*)は、高知県高知市(土佐国土佐郡高知)にあった城。別名、鷹城(たかじょう)。

江戸時代、土佐藩の藩庁が置かれた。江戸時代に建造された天守や追手門等が現存し、城跡は国の史跡に指定されている。日本100名城に選定されている。

高知市のある高知平野のほぼ中心に位置する大高坂山(標高44.4m)上に築かれた、梯郭式平山城。山の南を流れる鏡川、北の江の口川をそれぞれ外堀として利用している。

戦国時代以前には大高坂山城(おおたかさかやまじょう/おおたかさやま-)または大高坂城と呼ばれる城が築かれていた。現在見られる城は、江戸時代初期に、土佐藩初代藩主・山内一豊によって着工され、2代忠義の時代に完成し、土佐藩庁が置かれた。4層6階の天守は、一豊の前任地であった掛川城の天守を模したといわれている。一豊により河中山城(こうちやまじょう)と名付けられたが、高智山城と名を変えたのち、現在の城名となった。

高知城は本丸の建物が完全に残る唯一の城として知られている。明治6年(1873年)に発布された廃城令や、第二次大戦による空襲を逃れ、天守・御殿・追手門など15棟の建造物が現存し、国の重要文化財に指定されている。現在これらは高知県の所有物となっている。また、この15棟の現存建造物に加えて、土佐山内家宝物資料館に丑寅櫓の一部であると伝わる部材が収蔵されている。

城全域は高知公園として開放されており、本丸御殿・天守は懐徳館という資料館として利用されている。城の周辺には、高知市役所、高知県庁、地方裁判所、地方検察庁などの行政機関や司法機関が立ち並び高知県の行政の中心地となっている(県庁舎のみ実質的には公園内にある)。

また、城内には山内一豊と妻・千代(見性院)、板垣退助の銅像が立つ。

南北朝時代

大高坂山には、高知城の前身として大高坂山城(または大高坂城)があったとされる。付近の豪族・大高坂氏によって築かれたとされるが、定かではない。記録上では、大高坂松王丸が居城したことが知られている。松王丸は南朝方に付き、延元3年(1338年)には後醍醐天皇の第7子・満良親王を迎えている。しかし興国2年(1341年)、松王丸は北朝方の細川禅定、佐伯経定と戦って敗北、大高坂山城は落城した。その後文献に名がなく、廃城となったと考えられる。

安土桃山時代

天正15年(1587年)、長宗我部元親は、豊臣秀吉の九州征伐従軍から帰国後、大高坂山に再び城を築いた。ただし、天正13年(1585年)には元親が既に大高坂を本拠にしていたとする説もある。

天正19年(1591年)、水はけが悪かったため元親は3年で大高坂山城を捨て、桂浜に近い浦戸に浦戸城を築いた。ただし、元親が大高坂山城を捨てたとする見解は山内氏支配下の江戸時代の二次史料で初めて登場したものであること、浦戸城の規模の小ささや浦戸移転後も大高坂周辺の整備が進められていた形跡があることから、浦戸城は朝鮮出兵に対応した一時的な拠点に過ぎず、大高坂山城の整備も引き続き行われていたとする説もある。

慶長6年(1601年)、関ヶ原の戦いにおいて元親の子・盛親は西軍に与して改易された。代わって、山内一豊が掛川城から転入し、土佐国一国24万2千石を与えられ、浦戸城に入った。

慶長6年(1601年)8月、浦戸は城下町を開くには狭いため、一豊は百々綱家を総奉行に任じ、翌月より浦戸湾に面した地の利がある大高坂山に本丸の造営と、城下町の整備のために鏡川・江の口川など川の治水工事に着手した。当時、周辺は湿原が広がるデルタ地帯であった。

慶長 8 年（1603 年）、本丸と二の丸が完成。一豊は 9 月 26 日（旧暦 8 月 21 日）に入城した。この際に、真如寺の僧・在川（ざいせん）により、河中山城（こうちやまじょう）と改名された。

慶長 15 年（1610 年）、度重なる水害を被り、2 代忠義は河中の名を忌み嫌い、竹林寺の僧・空鏡（くうきょう）によって高智山城と改名した。この時より、後に城の名は省略されて高知城と呼ばれるようになり、都市名も高知と呼称されるようになった。

慶長 16 年（1611 年）、三の丸が竣工し、ここに高知城の縄張りが完成した。

享保 12 年（1727 年）、高知城下は大火にみまわれ、城は追手門以外の殆どが焼失した。現在見られる建造物の大半は、こののちに再建されたものである。

享保 14 年（1729 年）：8 代豊敷は、深尾帯刀（ふかお たてわき）を普請奉行に任じ、城の再建に着手。

寛延 2 年（1749 年）：天守ほか櫓・門などが完成。天守は小振りとなったが外観は焼失前の姿が復興された。

宝暦 3 年（1753 年）：再建完了。

Wikipedia による

